

ふるさとを愛する心の育成

～将来、ふるさと五條につながりをもつ生き方を～

五條市教育委員会

1. はじめに

五條市では、「五條市ビジョン」や「五條市教育大綱」に基づき、今年度から5年間を対象とした第4期五條市教育振興基本計画（五條市「夢・志」教育プラン）を策定した。中学校区ごとに一つの学園として、施設分離型の小中一貫教育を推進している。また、市内の認定こども園・小学校・中学校・市立西吉野農業高等学校で連携した教育を進めてきたが、今年度は市内にある県立五條高等学校と県教育委員会、市、市教育委員会が地域の連携の推進に関する協定を締結したことで、更にその厚みを増している。

世界遺産学習においては、本市大塔町に世界遺産大峯奥駈道の一部が通っていることも含め、市内の歴史、文化、環境、産業、観光など広い視野に立って、地域を愛する心を育てる「ふるさと学習」を展開している。

2. 教育目標

第4期五條市教育振興基本計画では、「社会に求める姿」「保育・教育に求める姿」「学校・家庭・地域の融合に求める姿」の3つの柱を掲げている。こども園や学校では、一人一人がふるさとを感じ、ふるさとを語り、将来的に五條につながりをもつ生き方ができる子どもたちの育成を目指している。また、社会全体を通して、住民のシビックプライド（誇りや愛着）を育むことや、この町で住んで良かったと言える活気あるまちづくりの推進を目指している。

3. 教育委員会・学校での取組

○五條かるた

市教育委員会では、平成29年に市制60周年を記念して作成した「五條かるた」を、毎年小学1年生に配布している。

また、このかるたを使って「五條市小学生ふるさとかるた大会」を開催し、毎年多くの小学生が参加している。

かるたを通して楽しみながら学習することで、五條市のすばらしい歴史、文化、自然などを知り、興味をもつきっかけにもなっている。



○副読本「五條学」

市教育委員会ではふるさと学習のための副読本「五條学」を発行している。歴史、行事、文化財、自然、偉人など分野は多岐にわたり、国語科、社会科、理科、家庭科、総合的な学習の時間など様々な場面で活用することができる教材となっている。

また、今年度、一人一台タブレット端末を活用するために、デジタルブック版「五條学」をスタートさせた。

○学園で取り組む「ふるさと学習」

五條東小学校と五條東中学校から成る五條東部学園では、一貫した「キャリア教育」と「ふるさと学習」をテーマにしている。今年度、北宇智小学校と統合して五條東小学校は更に校区が広がった。同校では、統合に向けてこれまでからも交流をすすめており、その一環で令和2年度の6年生が「五條東ふるさとかるた」を作成している。令和3年度からは、このかるたに描かれているスポットを巡る「東小かるたツアー」を毎年している。



今年度このツアーを行った6年生は、自分たちが知ったこと、学んだことをどのような形で表現するか相談し、かるたに描かれている場所を校区地図に整理して、「東小かるたマップ」を完成させた。

校区地図は小学3年生の社会科でも扱う内容であり、下級生にもわかりやすく伝えることができる成果物となった。

また、校区にゆかりのある江川氏が幕末に活躍した静岡県伊豆の国市にある、葦山南小学校へもこのマップを送って、つながりのある五條市を紹介した。

五條東中学校では、毎年3年生がふるさとをテーマにした学習に取り組んでいる。グループに分かれて、歴史や環境、食、自然、観光などのテーマを選択して調べ、報告会を行っている。今年度の報告会では、どうすれば五條市をもっと盛り上げることができるかという視点で、現状報告と提案を行った。あるグループは、五條市出身の漫画家である椋図かずお氏について調べ、代表的なキャラクターを用いた町おこしを提案した。調べる課程で生徒自ら椋図氏に手紙を送り、そのことがきっかけとなって報告会当日に本人がサプライズ訪問されることにもつながった。



4. おわりに

各学園で、まずは自分の校区を知るところから継続的に「ふるさと学習」に取り組んでいる。世界遺産や様々な歴史、文化、自然の魅力に触れながら、子どもたちの中から「もっとこうすればいいのに」という課題意識の芽生えもみられた。今後は、例えば市政へ発信して自分たちもまちづくりに参画しているという意識をもつことなど、持続可能な開発のための教育 (ESD) の視点も取り入れ、子どもたちの課題意識から次のステップへと進めることで、ふるさとを愛する心の更なる育成に繋げていきたい。